

まだまだ知らない事間がたくさん！



縄文時代の暮らし

～下弓田と三幸ヶ野～

私たちの暮らす串間市は、太平洋に面し山々に囲まれている自然豊かな土地です。現代でこそ私たちはどこに住んでいても新鮮な魚や肉、野菜を食べることができますが、昔の人々はそうではありませんでした。同じ時代であっても、住む場所によって、食べるものや器の模様までさまざまな特色があります。私たちの先祖はどのように暮らしていたのでしょうか。今回は、日本の歴史の中で1万年以上も続き、およそ2300年前に終わったとされる縄文時代の2つの遺跡を紹介し、海と山の暮らしの違いを一緒に学んでみましょう。

三幸ヶ野遺跡 一方、山間部に位置する下弓田遺跡と同じ縄文時代後期の三幸ヶ野遺跡から出土した遺物は、下弓田遺跡から出土した遺物とは様子が違います。平成3(1991)年に串間市によって発掘調査が行われたときにはサツマイモ畑でしたが、その地中約1メートル下から竪穴住居跡や土器、そして50を超えるたくさんの磨石・石皿が出土しました。この磨石・石皿は、木の実などを加工するための道具です。そのため、山の幸の収穫を行っていた人々が住んでいたということが分かります。この遺跡からは縄文時代以降の遺物は発見されておらず、このことは当時の自然環境の変化が大きく関わっていると思われる。実は、約2500年前の縄文時代の終わりごろは大きく気候が変わった時期であり、日本を含み世界的に気候が寒くなりました。自然環境が変化したことにより、木の実などの食料がとれなくなったことで縄文時代の三幸ヶ野の人たちはいなくなり、後の時代に人がまた移り住んできた際に、その一帯が耕されたと考えられます。

下弓田遺跡 下弓田遺跡は、大字南方字狐塚に位置する、県に指定されている串間市を代表する縄文時代後期の遺跡です。約3千～4千年前ごろの福島平野は、満潮時に湖となつて干潮時は干潟が現れるといった地形環境にあり、下弓田遺跡は湖のほとりの砂丘上に営まれた集落であったと考えられます。昭和時代に県によって発掘調査が行われたところ、住居跡が確認され、竪穴住居跡(地面に穴を掘って柱を立て、その上に屋根を作る半地下式の住居)の内部には炉(火を使う設備。台所のようなものも見つかっています。出土した遺物は石鏃・石の矢じり、狩猟・戦闘具や石匙(ナイフ)、磨石・石皿(食物を練ったりすりつぶしたりする調理道具)、石斧・斧や土掘り用の道具、石錘(漁業用のおもり)など、生活や生産に必要な道具がそろって出土しています。さらに出土した土器は、遺跡の名前から「下弓田式土器」と名付けられており、巻貝や一枚貝など貝殻を使った模様が付けられています。下弓田独自の土器は、海に近い下弓田に住んでいた当時の人々ならではの特色が表れた土器であるといえます。



平成3(1991)年発掘調査時の三幸ヶ野遺跡



磨石と石皿



志布志湾上空からみた下弓田遺跡の位置



下弓田式土器

以上、下弓田と三幸ヶ野の遺跡から、同じ時代の遺跡であっても人々の営みは山や海によって特色があり、当時の人々はその環境に適応して生活していたことが分かりました。また、串間独自の自然を活用して作られた土器だけでなく漁業用具や木の実加工道具など、私たちの先祖の生活について今を生きる私たちに伝えてくれます。

ポイント

土器は、食事用の食器から貯蔵用の保存容器、さらにはお墓用の棺や副葬品などなど、生活に密着した代表的なモノのひとつです。日本列島のほぼ全域で作られており、時代はもちろんのこと、その土地の気候や生活、社会の変化に影響されて、形や模様、大きさ、作り方など、さまざまに変化します。考古学では土器の形や特徴を基に、時代を判別する「ものさし」となっています。



【福島地区・今町】川井富士男さん撮影 「漂うけあらしに差す朝日」

たごよみ

「短歌」串間短歌会選

解くなく六十五年赤い糸
色褪せたれど 穂し明け暮れ

古川 野邊 俊子

一日の

いのち愛しめばくれなるの
もゆる夕陽が 山の端染むる

西小路 坂本 不二子

市美展に酪農の友の「三美神」
愛し頼もし 三つの臀部

霧島 清水 しづ子

しその実を噛めばプチプチ

弾けたり

飯に戴く 香りいただく

小路 安山 らく

少子化に 老人多き 郷土より
出でたる大臣 興せ山河を

堂園 吉田 良子

うたごよみに掲載する写真を募集しています。
まちの魅力を再発見できる写真のご応募をお待ちしています。詳しくはこちら▶

総務課秘書広報係

☎72-4559



「俳句」あさひ俳句会選

曾孫のダンスのあいさつ
初動画

仲町 木島 幸子

先見へぬ あやふきにるて
悴める

上町一 又木 順子

春卵 双子と表示の
ありにけり

仲町 原 里歌

買初は 身の丈に合う
庭箒

仲町 矢野 欽子

光り合ふ 朝日の中の
実千両

一般投句 鍛冶屋 森本 慶典

*短歌・俳句の投稿は

■短歌 清水しづ子さん(☎72-5546)

■俳句 又木 順子さん(☎72-0159)